

平成 27 年 7 月 1 日（金）に高槻市立榎田小学校 3 年生、4 年生を対象に、元天王寺動物園園長の長瀬健二郎先生の出張授業（テーマ：動物の命の不思議）が開催されました。以下はそのダイジェスト版です。

■自己紹介

最初に長瀬先生から自己紹介です。先生は 38 年間、天王寺動物園でお仕事をされていらっしゃいました。

天王寺動物園、今は全部で 210 種類ぐらいの動物がいるそうです。今日は、そんな動物たちと長く過ごしてきた先生が、動物たちの生活や、からだの不思議について、実際にあった面白いエピソードを交えながら、お話してくださいました。



■ダチョウの卵について

長瀬先生は、動物園の元園長さんですから、普段人の手でさわれないような、動物にまつわる様々な標本をお持ちです。右の写真で子供たちに見せているのは、世界で最も大きな卵を産むと言われるダチョウの卵の標本です。

この卵、大きさもさることながら、その殻（から）の硬（かた）さも、ニワトリの卵とは比べものになりません。

では、ニワトリの雛（ひな）はどうやってこの硬い殻を割って出てくるのでしょうか。長瀬先生は子どもたちに問いかけながら、その答えを導き出します。

子どもたちの中から、「中からバリバリ殻を食べる」や「ウーンと中で伸びをしてバリーンと出てくる」など、面白い意見が出てきましたが、果たして真相はいかに。



■天王寺動物園のゾウについて

いま、天王寺動物園には博子さんというゾウが飼育されています。平成26年までは、動物園に64年間も飼育されていた春子さんというゾウも飼育されていました。残念ながら春さんは亡くなってしまいましたが、実は春さんの生前、この2頭はとても仲が悪かったそうです。

その原因は、もともと古くから動物園で暮らしていた春さんが、後から動物園にやってきた子ゾウの博子さんのことを、自分の縄張り（なわばり）を侵（おか）したとして、いじめてしまったことがきっかけだそうです。

さて、いじめられながらも大人のゾウになった博子さん。いつか春さんに仕返ししてやると、復讐（ふくしゅう）を考えていました。

ある日、博子さんは、春さんの性格を逆手（さかて）にとった、とんでもない復讐の方法をあみ出します。動物も人間と同じように性格があるということがよく分かる、とても面白いエピソードを長瀬先生からお話いただきました。



■動物のからだの特徴（とくちょう）について

動物には変わった形の動物がたくさんいますが、それらはすべて自然の中で生きていく上で、過ごしやすいように体の形を変えてきた結果です。

たとえば、カバやワニは主に水の中にいることが多いですが、

そこで上手に暮らすために、ある体の特徴を持っています。長瀬先生が動物写真のスライドを使いながら分かりやすく解説してくださいました。



また、右の写真のように肉食動物と草食動物では顔の作りが違います。

この違いも、それぞれの動物が生きていく上で、大変重要な意味を持っています。



子どもたちは、誰でもできる指を使った簡単な実験方法を長瀬先生に教わりながら、なぜ肉食動物と草食動物の顔のつくりが違うのか、学びました。



私たち人間には無くなってしまったしっぽも、動物たちには生活する上では無くならない役割があります。

自分の胴体より長いしっぽを持つものから、すごくフサフサしたしっぽを持つもの、太いしっぽを持つものから、細いしっぽを持つ動物など、多種多彩(たしゅたさい)です。

これら、動物のしっぽの役割を、たくさんの動物の写真とともに、身ぶり手ぶりで説明していただきました。

